

いま 政治が面白い!

Femme

ファミ ポリテイク

Politique



創刊準備号

政治家はほんとうに「政治浄化」を望んでいるのか	2
女のいいたい放題「政治家をマナイタにのせる」	5
インタビュー・堂本暁子「素人議員に何ができる？」	6
書評「日本改造計画」小沢一郎著	11
議員とお金 その一「国会議員の給与と活動費」	12
議長選出劇うらおもて	15
創刊のことば	15

政治家はほんとうに「政治浄化」を望んでいるのか

細川内閣は何よりも「政治改革」をめざしている。「年内には必ず実現する」と首相は言い切った。しかし政治家たちのめざす「政治改革」の实体とは何だろうか



写真提供・毎日新聞社

政治家の腐敗・汚職が明かされる度に「政治浄化」が叫ばれる。しかし騒ぎが静まると、灰色政治家のほとんどは「みそぎ」を済ませて政界に復帰し、すべては元の木阿弥。この構図に憤りを感じない人は少ないだろう。

私たちの望む「政治改革」とは、何よりも「政治浄化」である。それはクリーンな選挙を実現すること

である。私たちが望む「政治改革」とは、何よりも「政治浄化」である。それはクリーンな選挙を実現すること

そもそも「小選挙区制」とは何か

現在、衆議院の選挙制度は、「中選挙区制」。一つの選挙区が比較的大きく、選出される議員定数も三、四人と複数で、それ故同じ党から複数の候補者が立候補しても、当選が可能であった。またこれは第二党から出た候補者も、比較的容易に当選できるシステムであった。

これに反し「小選挙区制」では、一選挙区から選ばれる議員は一人。同じ党から二人が立候補するということはあるが、第二党以下は完全にぼしやる。

自民党は以前から、この方式に執着を示しており、鳩山・田中の

とであり、企業と政治の癒着の根を断ち切って、金で動く政治のシステムを変えることである。

ところがその「政治浄化」の気運が、いつの間にかあらぬ方向に曲がってきている。

「政治改革」即「小選挙区制」の論議ばかりが浮上し、「浄化」に関する論議は一向に聞こえてこないのだ。

両首相も色気をみせたが、野党の猛反対でつぶれてしまった。それも当然で「小選挙区制」に切り替えると、各選挙区で自民党の一人勝ち、野党は壊滅的打撃をうけるという結果がはっきり見えていたからである。

ところが情勢が変わった。

非自民与党の政党が連合して候補者を立てると、小選挙区制に切り替えても、何とか互角に戦えそうだが、という見込みがついたのである。

こうなればまったく話が違ってくる。「小選挙区制」を実現するための最大の障害はもう、ない。



お隣の韓国でも、一九八八年と九二年の二回にわたって小選挙区制で総選挙を行っている。結果は買収、供応の横行で惨憺たるもの。何と全部で八千億円の金がばらまかれたという。

日本はそんなことないだろう、などとのんびりしては行かない。少し想像力を巡らしてみればすぐわかる。

たとえ選挙制度が変わったとしても、昨日まで「義理人情」プラス「目先の損得」で投票していた人々が、突如「政策」を基準に投票する理性的な選挙民に豹変するはずがない。

地元の「みそぎ」を受けて返り咲く灰色政治家を支える人々は、

「小選挙区制」浮上のもう一つの理由

もう一つ、この制度が浮上することになった大きな理由を忘れてはならない。新生党の小沢一郎氏の「二大政党制」実現にかける情熱だ。

「小選挙区制」になれば、当選するのは大政党の候補者ばかりになり、群小政党はふるい落とされ消滅し、おのずから英米型の二大政党制が出現する、というのが小沢氏の読みで、その実現のために、彼は自民党をとび出すほどの情熱を傾けている。

その小沢氏の頭のなかで「政治改革」は「政治浄化」にいささかも結びついてはいない。

もともと小沢氏は金丸氏の側近に位置し、いまだに灰色の影を引

日本のあらゆる地方に存在する、「ふつうの人々」なのである。「小選挙区」になり、地域との関わりが濃密になればなるほど、金丸型の候補者が選出される可能性はむしろ極めて高い。

現実家ぞろい自民党の政治家に、こうした選挙民のメンタリティが読めていなかったはずはない。彼らが「政治浄化のために小選挙区制を」と主張していたのは、「なホソネをはげば」「金持ち同士が争うと、金がかかってたまらぬ」ということなので、小選挙区になれば相手は少数、しかも貧乏、「やれやれ、これならそれほど金をかけなくてもすむわい」ということに過ぎない。

まずっている政治家である。その彼が牛耳っている新生党が、今回の総選挙でどんな動きをしたのだろうか。

長崎二区での「佐世保重工業」の企業ぐるみ応援は「超自民党的選挙」であったし、(毎日新聞八月二十二日)、八月三十日同新聞の「地方議員逮捕の違反一覧」表でも、選挙違反で逮捕者が出た陣営のなかで、新生党系は自民党系についてダントツに多い。(自民党系三十件、新生党系八件、社会党系一件、日本新党系一件)。

小沢氏の頭のなかでは「政治改革」が決して「政治浄化」と結びついてはいない。

ただし小選挙区になると、与野党とも、自党の候補者とかちあって、これまでの地盤からはじきだされる人が必ず出てくる。

「小選挙区制」は政治浄化につながるのか

「小選挙区制」を「政治浄化」につながるかと主張する人たちは、次のようにいう。

「同じ政党から複数の候補者が立つと、互いに政策で争うわけにはいかない。利権でつり、金を使い、結局は金権競争のものになってしまう。小選挙区制」になれば、立候補者は政策で争い、議論

そこで「比例代表制」と「小選挙区制」を組み合わせる案が必然的に浮上することになる。

を戦わせることになって、公正に戦える。だから「小選挙区制」こそ、政治浄化の決め手なのだ。

党利党略で主張する人ばかりでなく、心から政治浄化を願っている善意の持ち主でも、この主張に与する人はかなり多い。

だが、ちょっと待て。この主張が真実であるかどうか、

事実を照らして考えてみたい。日本にも実は一つだけ「小選挙区」がある。奄美群島区だ。

一九九〇年二月、この区で当選した徳田議員は、同年五月十八日、テレビ朝日でこう語っている。

「とにかくひどい。小さくなればなるほど大変ですよ」「私たち、十一万票のところまで戦って、一一〇五票差できまった。そういうときには、一票を三十万円、五十万円、百万円で買っている人がおるからね」。

これは何も、奄美だけの特殊事情ではない。

「浄化」の決めては制度いじりにはない

どんな選挙制度にも、それぞれ一長一短がある。何を選ぼうと、買収と腐敗の横行する政治の現実を変えるべき基本的な手を打たなければ「政治浄化」は実現できない。

八月二十六日発表された連立与党の「政治改革」への合意は、「政治浄化」のために、私設秘書への連座制の拡大や、公選法などへの違反者の罰則の強化など、一応いくつかの主張を盛りこんでいる。

しかしこの「合意」は、政治浄化のためにもっとも重要な項目を骨抜きにしまっている。企業・団体献金の取扱いについては、「五年後に見直すことで決着」しているからだ。

これまで政治が、国民一人一人の幸福よりも企業の利益を優先する存在であったのは、平たくいって企業献金なしには政治活動が不可能だったからである。

組織にせよ、個人にせよ、金を

いままの「政治浄化」のチャンス

どんな選挙制度にも、それぞれ一長一短がある。小選挙区制をとうとうと、大前研一氏の首唱される大選挙区制をとうとうと、さては現在の中選挙区制だとうとうと、買収と腐敗の横行する現実を変えるために基本的な手を打てば、「政治浄化」は実現できるのである。

ただしどんな手を打とうとも、

出してくれる相手の意にさからう行動はとりにくい。

自民党にせよ、新生党にせよ、社会党にせよ、いや政党であれば多分例外なく、そう考えているのが、「政治浄化」についてのホネネなので、自分たちの直接の利害にかんする「制度改革」については血まなこで議論しても、「浄化」にかんしては一向に熱が入らないのはそのためだ。

もちろん政治にはお金がかかるだろう。しかし「金がかかる」という現実には安住して、その内容が適正なものであるかどうか、という反省と見直し、政党内部で一向に行われていない現実はやりきれない。

日常の政治活動にせよ、選挙にせよ、どこにどれだけの金がかかるのか、徹底的に議論し、明らかにしてもらいたい。その上で、どうしても必要な金とわかれれば、国民は喜んでそれを負担するだろう。

自民党が万年与党であって、「浄化」の実は望めなかったであろう。その点で、政権交替とは何とすばらしいことであろう。

権力の座をすべりおちた人々は木から落ちたサルだ。経団連は献金は取り止める構え。企業献金の風当りはつよい。

こうした状況のなかで、金をか

ける選挙にたいするアレルギーは、おそらく自民党のなかにも高まりつつあるだろう。

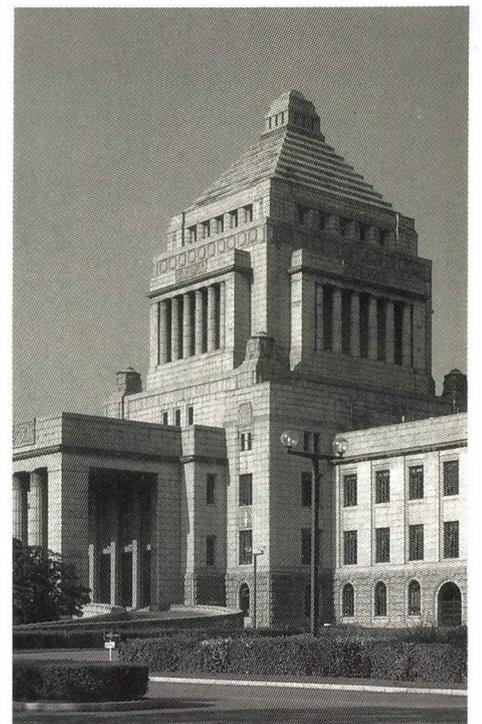
「政治浄化」実現はいまや決して夢ではない。

しかし金権政治の自民党が野に下っても、同じような体質の政党が実権をにぎるのである、何のための政権交替かわからない。

「政治改革」が実現できなければ野に下る、ようなことを細川氏は言っただけでも、「小選挙区比例代表並立制」の実現がイコール「改革」ではない。問題は「浄化」のために何をやるか、ということだ。

もしも国会内部での反対がつよく、「政治浄化」が骨抜きになりそうなら、首相はただちに国会を解散して、国民の意志を問うてほしい。

そのときにこそ、誰が本当に「政治浄化」を望んでおり、誰が望んでいなかったかが明らかになるだろう。

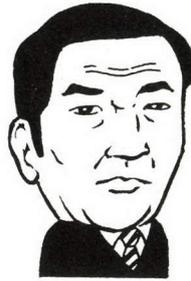


女のいたい放題 政治家をマナイタにのせる

A 自民党の橋本龍太郎さん。おばさんにすごく人気があるっていうけど、みなさんはどう？
B えーっ橋本さんが？ ウーッ。
C あの頭、シャンブーつけて洗いたい！
D それにしゃべり方がねえ。

私はほんとうはよく分かっているんですけど、レベルを落ととしてあなた方によく分かるようにしゃべってあげましょう、っていう感じ。聞いてると腹立ってくる。

A でも婦人学級になんか行ってきてみると、好き、っていう人結構いるわよ。総理になるなんて話もあるし。



B ギャー。

A 次に河野洋平さん、どう？

B いまより前のほうがよっぽどよかった。自民党にもどってからは顔が変わっちゃった。自民党出て新自由クラブ作ったときは、いい顔だったのに。

映画に出たこともあったでしょう。そんな感覚もなかなかいいなって思ったんだけど。

大体、いつも与党のこと悪くいうでしょ。その言い方がさあ。批判するならもっとうまく批判すればいいのに。皮肉っぽく言ったりすることもあんじゃない。

E はなからケンカ腰。もっさ

わやかにやったらいいのにね。やっぱり痛めつけられたんだろ。うね。性格変わっちゃったんだ、苦労しすぎて。



A かわいそうに。でも人間、性格変わるってことはたしかにある。これからよく変わるかもよ。

C あの眉間のしわは消えないだろうな。

E ああ、江田五月ってどう思う？ 私、なんだか割り切れないんだなあ。どうしてあんなに控えめなんだか。自分は目立っちゃいけない、っていうようなね、それが謙虚な控えめでなくて、これ以上出すぎると危ない、っていう感じの控えめさ。なんか変な気がするのね。

C あの人を科学技術庁長官にしたのは、どういう意味があったのかしらね。

A でも大分前に、社民連は原発反対を取り下げちゃってる。

D 政治家って、それでもやっぱり政治が好きなのか、それともあいう世界が好きなのか、って考えちゃう。

E まあ、たまには金もうけで入る人もいるかも知れないけど、政治家になる人は、半分以上の人は、最初はやっぱり日本をよくしようとか、そういうフレッシュな志で

入ることが多いと思うのね。でもあまりにも泥水がすすまじいんで、やっぱりどんどん染まっちゃうんだろ。うね。よっぽどパワーのある人でないと、あんなかでちゃんと自分の思うことをやっていけないんだと思う。

A 細川さんはどうかな、その点で。

E うーん。

A 私はね、彼が殿様だという点に期待しているわけよ。

お殿様のよさっていうのは、うまれつき身分にも名誉にも、まあお金にも恵まれてるから、そんなものはあっても大したものじゃない、っていうことが分かっているってことなのよね。だから他の人みたいにガツガツしない。政治やるにしても金や名誉のためにでなく、いい仕事をしたからこそする、っていうことが中心にあると思う。淡々としたところがある、っていうのはそういうことですよ。



B 「広告批評」の九月号の細川さんのインタビュー読んで感じたのは、他人のことを気にしてない人だということね。

金持ちけんかせず、っていうじゃない。私、前にはそれが、金持ちはおなががいっぱいだからケンカしないんだ、っていう意味だと思っ



てた。でもそうじゃなくて、金持ちって、誰とも自分を比べることがない、競争しない、だからケンカにならない。っていうことなんだと分かったの。この記事読んで。こういう人ってすごく、人間として未来的な感じがする。今の人間ってみんな、競争社会で汲々としているでしょ。でもこれからはこういう人が出てくると思うの、私たちの間からも。誰とも競争しなくてね、僕は僕、っていう人が。そういう人が総理、っていうのは私はずごくいい、と思うの。

A 若い人のなかで、これからそういうタイプの人がたくさん出るかもね。

B 豊かな生活のなかから育った若い人がね。私はそういう人たちに期待するなあ。

E だけどそういう人はうっかりすると単純な傀儡になるわよ。ただ扱いやすい人、っていうだけの。

A 細川さんがそんなヤワな人ではないことだけはたしかですよ。ただ、これからどういう政策を取っていくのか、そこがなかなかはっきり見えてこないのよね。自分の言葉を大事にする人なんだし、内部で足をひっぱられることはあるだろうけど、もう少し実感のこもった言葉で語りかけてほしいなあ。

素人議員に何ができてきえるか？



素人に何ができるか

—昨日まで他の商売をしていた人がテレビで名前や顔が売れて政治家になりますよね。素人がパッと政界に飛び込んで何ができるんだろうと普通は思うわけです。

堂本さんはTBSのディレクターでいらした。どういうキッカケで政界入りなさったのか、またご自分が素人であるということについてどう考えていらしたか、そこをまずお伺いしたい。堂本 きっかけはもう、土井たか子さん以外にない。ちょうどテレビの仕事が私にとって一番面白いときだったし、女がそこまでのキャリアを確立するのに三十年ちかい歳月がかかった。だから当時は、その仕事を失いたくない、というのが正直な気持ち。

女性の委員長じゃなくて、男の委員長だったらまず絶対に受けなかったでしょうね。

私に限らず突然国会議員になった人ってね、運とか宿命とかはすみと、そういうことである人がわりに多いような気がする。

調査室を使いこなす

堂本 TBS時代に記者として国会の中を見ていたけれど、私は法律の専門

家ではない。法律的な知識が少ないことに危惧は抱いたけれども、それまでジャーナリストとして現場を見てきたので、政府に突きつけたい質問はいくらでもあった。最初の頃はそれでドンドン質問ができた。それが一年目の新鮮なとき。

二年目には、参議院にも衆議院にも存在する調査室と法制局をフルに利用した。

調査室というのは、予算調査室、文教調査室、外務調査室というふうには、議員の委託を受けて調査をするところなの。環境基本法ならば、それについて調べてお厚い資料を議員に提供する。それは非常にわかりやすい資料になっていて、問題点を書いておいて下さいと言うと、担当官にもよるけれど書いてくれる。

当選してすぐに予算委員会と外務委員会、外交安保特別調査委員会の三つに希望して入りました。

私の場合は最初が予算委員会だったもので、まず予算書が読めないことにはどうにもならない。調査室にお願いで下さいと言ったわけ。それじゃあ、週に一回レクチャーしましょと。予算書は非常に読みにくい。細かいこと



中央・堂本議員

は何も書いてない。予算書を見ても家計簿のように収支がわからない。

——こっちは要求すれば、調査室は義務として議員への説明を引き受けなきゃいけないわけですか？

堂本 そう。議員のためにサービスすることが仕事だから。国会議員は年々歳々選挙で変わっていくでしょ。私に限らず最初から国会議員の教育を受けてきた人なんかいない。例えば法律家といえども、立法府へきたときはみんなヒヨコなわけです。

調査室の優秀な方たちで議員の育て係、教育係になっている方がずいぶんいると思う。でも、「明日質問があるから一時間分質問を作っといてくれ」と言う議員だっているわけね。こうなると本当の勉強ではなくってしまう。調査室の一番いけない使い方です。

「検討します」でも役に立ち

堂本 委員会では、質問に対する大臣の答弁というのは絶対で、大臣が「やりません」と言ったことは行政としては執行しなきゃならないの。だから役人の答弁にしても大臣の答弁にしても、やれること以外は絶対にイエスって言わない。

「やりません」と言わないまでも、「じゃ、

そのところは研究いたします」とか、「検討いたします」とかいうところまで辿り着くことが大事。「検討いたします」とか「研究いたします」ってことは、ま、相当前向きなんだと、経験からわかってきた。

——あ、そう。「検討」でもいいんですか？

堂本 それでも前向き。——ふん。

堂本 「そのことは行政としては十分やっておりますので出来ません」という否定的な答弁をしていても、一年か二年経ってみると、実は研究してやっている場合もけっこうあるんですよ。国会で問題になると行政が先取りするわけ。

フィリピンのカラカというところに、援助ではなく輸銀の協調融資で、発電所を一つつくったわけ。ところがこれがすごい粉塵で、周りにいっばい気管支炎とか結核の人が出てきた。空気がものすごく汚れちゃって、水も汚染された。

そしてその後、今度はマニラの電気が足りないからカラカIIをODAでつくってくださいという話があったんです。そしたらフィリピンのNGOが、カラカIIの公害の状況を改善してくれ

ない限りカラカIIは反対だと言い出したのね。ジャイカ(国際協力事業団)が調査団を出して調べたら、石炭の上に水を撒くスプリンクラーが壊れているとか、排煙脱硫装置がないとか、あとあらゆる欠陥があった。

絶対これは直してください、きちんと公害を出さないかたちにして、カラカIIも作るべきであると私は外務省に要求したの。現地にも飛び、フィリピンの議員や政府にも話した。ところがフィリピンはなんと、それだけの無償援助をしてくれるんなら学校をつくってくれて。日本だって昔は公害があったじゃないかというわけ。

私、すごくガツカリして帰ってきたんだけど、それから二年経って再びカラカIIを問題にしたらば、前向きの答弁は全然なかったのに、シコシコと外務省は私の言ったことを全部やっていた。——ホォ。国会での質問というのは、それだけの効果を持つということなのね。これは予算委員会ですか。

堂本 ええ。外務省委員会でもやったけども、予算委員会というのは他の委員会より重いんですよ。なんといったら全閣僚がいるから。やっぱり総理に直接訴えるほうが強い。

質問は予告する

——予算委員会でODAのことを質問しようとお思いになったのは、なぜ？

堂本 それはね、土井さんが私を説得しようとしたときに、私はTBSの仕事でレイテ島にいたの。レイテ島は日本の公害輸出でまさに海は死んでいて、工場の中で硫酸を浴びた人、死んでしまった人もいた。空気の汚染で木

は枯れたし、子どもたちにはいっばい湿疹が出来ていた。ひどい公害状況で、足尾銅山がそのまんまレイテに移ったという感じだった。

ちょうど百年前、日本の国会がスタートしたときに、田中正造が足尾銅毒事件を時の総理にぶつけているんだけど、私が当時の総理の海部さんに、百年経って足尾銅山と同じことを日本は援助というかたちで、フィリピンのレイテ島で繰り返していると。今度は国際的な問題で日本一国の問題じゃない。そのことについて総理はどう責任をとって、どうフィリピンの人たちに補償し、どうこれから予防していくつもりですか、と最後の質問でぶつけたわけ。それはもちろん、予告してなかった。

——(驚いて)質問で、予告するの？

堂本 するの。みんなする。驚いたことに質問書をそのまま渡す人さえいる。すると役人がそれに対して全部答弁を書いて大臣に渡す。私は、冗談じゃない、と。ある程度こういう項目については聞きますよ、ということはおいたけど。担当の局長が来ていないと困るから。

そしたら、予告がなかったので答えられない、と海部さんが言ったの。私、びっくりしちゃってね、今でも覚えてるけど、「そんな役人の答弁をきいているんじゃない。総理の見識をきいているんだ」という野次がとんだわけ。まさにそうだと思った。

野党には情報を出さなけり

堂本 それから援助に関わる資料を要求したら、大蔵省や外務省がなかなか資料を出さない。ものすごい攻防戦が

あった。

— なんて出さないんです？ 資料はあるんですか？

堂本 もちろんあります。

— あるのに出さない？

堂本 出さない。もう絶対に出さない。いまだに出さない。あらゆる場合にそうです。例えば、自民党に百の資料を出すとするれば、かつての新自由クラブに十ぐらいいらうと思う。で、野党に對しては一だらうといわれている。

野党の議員には何も知らせまい、何も渡すまいとする。一般に公開されているものまで時には出さない。国連の資料なんかその例。ひどいですよ。

— だけど、こっちが政権党になったとする。そしたら出さずでしよかね？

堂本 それが、これからの見もの。
レイテの銅の精錬所は、『レイテ戦記』に出てくるような山のはるかかなた奥、陸の孤島といわれるようなところへは日本に役人だつて行っちゃあいない。

私は一年がかりで現地で調査をしたし、こっちはTBSで専門家とずっと研究していたから、ODAには何段階にもわたる交渉のプロセスがあるのを見んな知ってるわけね。

それを全部資料要求した。ところがオリジナルは出さずに、簡単に、ほんの数行にまとめたものを二カ月後に出してきた。若い役人が徹夜して、マズイことを全部抜いて作ったんで、無駄な時間と労力を使って。

— ケシカランですね。

堂本 もっとひどいケースは、女性の健康ということについて厚生委員会でリプロダクティブヘルスについて私が

質問した。そのときの厚生大臣は非常に前向きの答弁をして、予算もついで研究会がスタートしたわけ。

で、一年経って厚生委員会へ出ていったときに、その研究会がどうなったか気になるからぜひ資料を下さい、どういふ研究が進んでいるのか具体的に教えてくださいて言った。そしたら出てきた資料が、B4の紙にたったの四行。

— ええッ！

堂本 四つのプロジェクトになっている。何もわからないから、もう少し詳しいのを教えてくださいと言ったら、今度は十七行ぐらいいのが来た。そこまでいったら私、もういいと思って開き直った。

次の委員会するとき、まずはじめの資料を委員会室に配った。これどうやってわかるんですか、って。これじゃわからないからもっと詳しく教えてください、ってお願いしたらこれが出ました。たつて、またダーツと二番目のを配ったの。質問を終えたら、局長がスツ飛んで来て、こんな（指でぶ厚さを示して）資料をもって謝りに来た。

いちいち、それだけのプロセスを経なければ野党には資料が出ない。そのこと自体がすっごく問題。

— 野党がだらしない、ってマスコミがおるけど、その背後に官僚の「意図的野党排除」があるわけね。これじゃ議会政治が育たないですねえ。

政治家の素質

— 政治家というものは、何をどうしたいかというしっかりした問題意識と、国民生活を良くしていこうという気持

ちがあれば、ズブの素人が国会に入っても出来るんだらうなという気がとてもするんですが、それに関して専門家の立場からどう思われますか？

堂本 アメリカの場合だったら、いきなり国会議員に出てくるということは難しいみたい。地方議員で出るとか、州政府の環境庁長官をやって上院議員に立候補したりとかね、ある程度政治家として手腕を発揮した人がだんだん国のレベルが上がってくるというシステムなの。

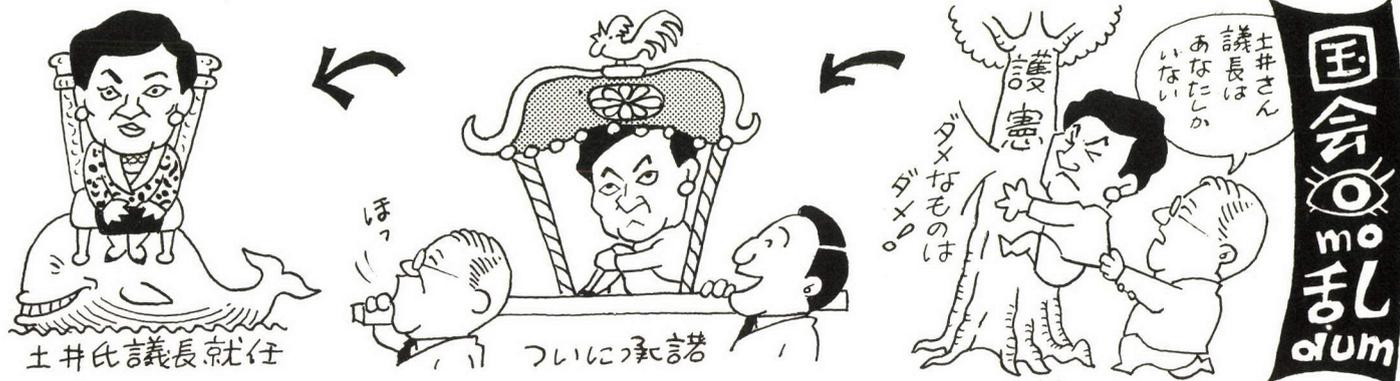
日本の国会でも市議会議員、県会議員、国会議員と上がってきている人が与野党ともいるけれど、そういう人たちはある種の実力は持っている。政治の中で育ってきているから。ところが日本の二世議員みたくに、二十八歳だか、三十歳そこそこでいきなり国会へ来るということはない。ケネディの息子でさえ最初は州議会から。

自分のことを糊に上げて言わせていただくと、日本はやはり玉石混淆だと思えます。玉石混淆というより、向いている人と向いてない人と両方議員になっちゃってるというのが実情ですね、日本の国会は。

田中 向いてない人が長年やっているというのはありますか？

堂本 あるんじゃないかしら。いったん国会に入っちゃえば現職は強いから。でも国会議員というのは国政を担うものだから、本来ならば大局的な方向を、福祉なら十年後二十年後、極端にいえば五十年後まで考えて福祉政策を考えなきゃいけない。

環境問題だってそうですね。今から百年経ったときに日本の海や緑がど



うなっているか、考えなきゃいけない。そう思ったことが国会の仕事だと思っただけで、いったん当選すると、地元の利権のために走る。細かい地元回りばかりやって、絶対落選しない地盤を地元につくることに全力を尽くす国会議員だって少なくない。

社会党ばなれば
どこから

—私は社会党の執行部は間違っていると思う。選挙に負けたとき山花さんは、われわれの現実路線がみんなの意識に浸透していないから低落しちゃったんだと言っている。この人、いったいどこに目がついてんだらうと思った。現実には反対なんですよ。

とにかく、右へすり寄る社会党にはみんな嫌気がさしている。自民そっくりの社会党なんか、無意味ですよ。

嫌になったもう一つの理由は、この前の土井ブームのときにいいなあと思っただけで、それから後、社会党は何にも役に立つことをしてくれない。あ、いいことをしてくれななと思うことが一つもなかった。

例えば、今度細川さんが記者会見で、この前の戦争は侵略戦争だったと言っただけでもね、みんなオッ、いいこと言ってくれたと思うわけ。でも旧ソ連が核の廃棄物を日本海に沈めたというときに、とんでもないことしてくれたいのね、肝心のとき社会党は何にもしないで寝そべっている。何かしてくれたって感じが全然ない。

堂本 そうじゃないの。いろいろしているの。それをマスコミが報道してくれないんです。あの時はこのオフイ



堂本事務所・アメリカ人秘書

スですぐにエリツインに手紙書いたの。政府より早かった。

私はシャドーキャビネットでエリツインの環境補佐官を知っていたから、まず問い合わせのFAXを入れた。そして十三時間後にモスクワから返事がきた。じゃあ抗議の声明を出しましようということで、早速山花さんの名前を出したの。ロシア大使館がすぐ社会党本部に答えに来たぐらい、迅速な対応だった。その経緯を全部私が記者会見で話したけど、記者が書かない。

—それはひどい！

堂本 そう。まあ、マスコミも社会党に嫌気がさしているのかも知れない。新党ブームだからそっちへ乗っていったところはあったかも知れない。でも

そんなわけで翌日の党首会談では、山花さんのほうが宮沢さんより情報を持っていたの。他にもこういったことはいろいろあるのよ。

憲法を世界に
拡げよう

—例えば憲法の問題にしても、マスコミに憲法改正を煽るような傾向が出てきているけど、護憲、護憲ということばかりじゃなくて、もっと信念を持って主張してほしいですね。

われわれはすごくいい憲法をもって、あれでいいじゃないか、と。本当の意味で昔から日本は平和主義の国なんだから。この前の大戦はうっかり西洋式の侵略的などころを学んで、後発の「帝国主義」をやって負けちゃったわけだけど、本来的な体質としては日本という国は非常に平和な国ですものね。だから平和憲法は「押しつけ」ではないんです。

堂本 そうね。革命もなかったしね。

—そうです。日本の伝統とくっついた憲法をもっているんだから、これでもいいんだと。最終的に武力ものをいわせるアメリカ式のやり方じゃなくて、あくまでも平和主義でやっていくんだと。それを憲法とともに世界に広げていこうという理念がなかったら嘘ですよ。

堂本 それはね。埋没しちゃってるけど、社会党は言い続けていると思う。ただ問題になるのは自衛隊の位置付け。違憲かどうか、現実対応ということでもグラグラしている。

平和憲法、平和主義については、そんなに社会党が変わっているとは思わない。今でもみんなそう思っているんじゃない？ 極端に言えば河野洋平



誕生 大臣 河野洋平



野党自民のいやがらせ



連立与党成立

まで憲法は変えないとか、新生党だつて護憲だと言っている。理念としては誰だって、戦争放棄をうたった第九条に反対する人なんかいないと思うのね。戦争を放棄したら平和になるわけだから。

ただPKOの問題が出てきたときに、どう対応していくか。やはり国際的に一つの理念を確立していくことが必要。

毅然と平和貢献の道を

堂本 現時点では私は、自衛隊ゼロってことは有り得ないと思う。

東西の対立が崩れたにもかかわらず、安定した平和に向かって世界が動いているかっていうと必ずしもそうではない。中国が核を持ち、北朝鮮が核を持ち、ロシアもウクライナも核を持つ状況で、軍事的なバランスで考えれば日本が安全な状況だとは言えない。

軍縮はするべきだけれども、現在自衛隊が存在している以上、与野党逆転したからといって、すぐに自衛隊をなくしましょうというのは非現実的な話なのね。

ただ予算を見た場合に非常に無駄な防衛費が多い。必要のないものをやたら買っている。アメリカから買わされている。そういう無駄な税金の使い方止めて、どんどん軍縮していくべき。完全な核廃絶になってきたら、そのときにドカッと軍縮すればいいわけで、どんどんスウェーデンのオモチャの兵隊さんに近づいていけばいいと思うんですよ。

小沢式のPKOのために自衛隊を派遣する路線は、絶対に駄目なんだと、



もっと強く打ち出すべきだと思う。

——社会党全体としてはそれ、打ち出しています。

堂本 私たちの出したPKO法案はもうなっているし、今でも変わってないはずなんです。社会党の中の一部の人たちはPKOに自衛隊を出すべきだって。PKOに出すってことは、ソマリアだっただけだって戦闘状態のところへ行くわけですよ。

そこで、相手が打ってきたのを打ち返せば戦争になる。だから例え百人の医者や看護婦を派遣しても、武器を持つ

す。

政権交代をチャンスにそれをもっと強力で打ち出してもいいと思う。

——女たちは絶対に、その線を支持しますよ。

黙っちゃんいな新人

——党の中でいろんな意見のバラつきがあるわけだけど、それを内部で議論する場というのはあるんですか？

堂本 ない。ほとんどない。それも問題になっている。ヒエラルキーがあって、勝手に中央で決めていくと。自分たちの意見をどう吸い上げてくれるのか、と。

今日（八月十二日）、参議院社会党の議員総会が開かれました。選挙改革の問題が今朝の新聞に出ていた。社会党の並立二票制っていうのはいいんだけどで決まったんだ、これからお盆で地元へ帰ったときにどうやって説明するんだ、ってみんな言っていた。

あまりにも早く事が展開しているから衆参百四十人全部の合意を得て先へ進むってのは難しい。

どうしたらみんなの総意を汲めるのかという議論が盛んに出ていた。自民党だってそうだろうけど、二百人、三百人近い人数になっちゃうと一人一人の総意を結果するということはなかなか難しいから、独裁政権になりかねないですね。

——まあ、昔と違ってみんな黙ってはいないでしょう。

堂本 そう。結構みんなどんどん発言しますよ、当選したての人が。

読む BOOK !?

小沢一郎 著
日本改造計画



小沢一郎氏はいわゆる二代目議員だということだが、自民党の大物政治家として自他ともに許し、今回離党して新生党の代表幹事となった。一世の風雲児ではないかと期待するむきも多い。

その人の新著であるから、大いに好奇心を湧かして読んだのだけれども、失礼ながら余りに平々凡々なのに驚かされた。

これは保守的というか、頭の切り換えの利かない熟年男性が、学校出てから三十年、仕事に明け暮れて実用ビジネス書くらいしか読まずに過ごし、さしたる知識も見識もないままに、一杯飲みながら「日本改造」を論じているような感じなのである。

「日本は大国だ、国際的責任を果たさなければならぬ」

「明治の政治家はえらかった、暗殺されたのはとくにえらい。リーダーシップを発揮しようとしたからだ」

「外交に関しては、何よりもアメリカと緊密な同盟関係を堅持する

ことだよ。これは私の信念だね」

「湾岸戦争に金しか出さなかったのはまずかった。アメリカを失望させ、日本叩きがひどくなった。フィリピンは要員を派遣して、評価されたじゃないか」

「日本の国益はだんだん、国際社会の理念に従って行動、協力することと一体なんだよ。国際社会の理念、そりゃあ国連の決議だよ」

これは全く素人の政治談議ではないだろうか？ この程度では、新聞の投書欄でさえボツになるのではなからうか。

小沢氏は日本の政治に、強力なリーダーシップが必要だと繰り返しているが、こんな程度の人（即ち彼が）強力なリーダーシップなど持ったらどういうことになるのだろうか。

「細川日記」という、第二次大戦中の日記がある。現在首相である細川氏の父、護貞氏が書いたものだ。昭和十八年、彼は元首相近衛文麿に依頼され、一刻も早い戦争終結をもちたらずべく、情報収集を

して高松宮に報告する任務についた。高松宮から、天皇を動かそうという作戦であった。

この時期、明治から引き続いてのことだが、日本には強力なリーダーシップが存在した。明治政府が富国強兵を旗印に、大いにリーダーシップを発揮した結果、陸海軍が今やリーダーシップを握るようになっていたのである。首相は東条英機、陸軍軍人であった。

日記によると、東条首相というのが大問題だった。彼は秀才（陸軍大学の成績が抜群）に違いないのだが、近衛氏の評によると「大きなことの分からない人」であり、「局長の仕事させたなら名局長だろう」であった。確かにあの期に及んで、戦況を樂觀できたというのだから大局は見えない人である。

そのため日本の戦争被害はいやが上にも大きくなってしまったのだが、このへんの事情は細川日記に詳しい。つまり並のことしか考えられない人間が、リーダーシップなんか

握ったら大へんなのだ。

明治の政治家は優秀だったというけれども、昭和二十年の敗戦が、明治以来の大国主義の破綻だということとは、当時ずいぶん言われたことだった。

並の人間はもとより、優秀な人間であっても、強力なリーダーシップなんか振り回すのは、非常に危ないことなのである。

敗戦後四十余年、もう戦争を知らない小沢氏のような世代が働き盛りになっている。彼らが厄介千萬な民主政治？なるものにイリイリして、一刀両断に自説を実行してみたいと思うのはむりもないことかもしれないが、政治家はそう無知では困る。

日本は遅れて近代化した国である。二十世紀という、すでに植民地主義では世界が回らなくなりつつある時代に、強力な（専制的な）リーダーシップのもと、植民地獲得に乗り出したところに遅れた近代化の悲劇があったのだ。アメリカが一番大事、国連は正

義。それは時代に遅れてはいないか？

彼はアジア重視の外交をというけれども、一方消費税を一〇パーセントにして、増収分を道路や、空港の建設にあてようという主張もしている。旧態依然の建設屋路線だから、発展しつつあるアジア諸国に、どんな形でかわるつもりなのか。環境を破壊し農業を立ち行かなくして、動乱を招くのであれば幸いである。

何しろ景気のいい話というのはウケる。日中戦争でも日米戦争でも、やらない線よりヤルぞ！という線の方が受けたのである。

小沢氏の説にはかなりの支持者があると聞が、おそらく男性的な力の論理が喜ばれるのであろう。

しかし時代は、十九世紀的な弱肉強食、適者生存では済まないところに来ている。大国小国の別なく、安全で人間的な暮らしを保障されるべき、棲み分けの世界が求められている。小沢氏の支持者が国を誤まる恐れはないであろうか。

議員とお金
その一

国会議員の給与と活動費

国会議員のポストが、世襲になった！
 そ、そんな、バカな！と誰でも思う。
 しかし次の数字を見ていただきたい。

衆参両院で、一冊議員は何と1
 25人もいる。

ほとんどが衆議院。
 ほとんどが自民党。1111人。
 つづいて社会党9人。民社党9人。
 公明、社民連、無所属それぞれ1
 人。

父親の志をつこうという子も、
 たしかにあるだろう。後援会の担
 ぎ出しも、あるだろう。
 しかし。

昔「井戸堀」という言葉があっ
 た。政治に入れあげて家産を失い、
 井戸と堀しかなかった男の代名
 詞である。

もしも親が「井戸堀」であった
 なら、大方の子は「政治家にだけ
 はなるまい」と心に誓うに違いな
 い。一冊議員がこれほど増えたとい
 うことは、それだけ政治家とい
 うものが経済的に「引きこもり仕事」
 ときには「うまみのある仕事」と
 なった現実を表しているのである。

私たちは「政治家イコール金儲
 け」の構図には憤りを感じる。し
 かし「政治家イコール井戸堀」の
 構図にも割り切れない思いを抱く。

金持ちが私財をなげうたなけれ
 ば政治がやれない、というのでは
 「ただの人」は政治家になれない。
 それでは困る。せつたいに困る。

「ただの人」が議員になったと
 き、国家は彼または彼女に、私財
 を投じなくても充実した政治活動
 ができるだけの、十分な報酬を与
 えてほしい。さもなければ、金の
 なる木でも持っていないかぎり、
 議員は「井戸堀」になるか、腐敗
 するしかないではないか。

いったい国は、国会議員にどれ
 だけの給与を与えているのだろう
 か。

参議院議員の堂本勝子さんの平
 成5年4月の給与明細書を公開し
 てもらった。(表1)

表1

支 払 明 細 書 (平成 5 年 4 月分)

参議院議員 堂本 勝子 殿

支	歳 費	1,292,000 円	引	党よりの依頼差引額	466,410円
	文書通信交通滞在費	500,000		電 話 料	15,892
給	永年在職表彰特別交通費		去	宿 舎 費	
	議 会 雑 費			宿 舎 経 費	
額	期 末 手 当		議 員 会 館 費	400	
			団 体 生 命 保 険 料	23,100	
控	議員互助年金納付金	97,911	額	交 通 傷 害 保 険 料	5,000
	所 得 税	224,530		議 員 会 館 食 堂 費	14,920
除	地 方 税	206,400	現	金 支 給 額	737,437円

議員が国から
 もらっているお金

議員の給与

まず純粹に議員個別への報酬と
 して与えられる給与を見てみよう。
 表の左側、一番上の「歳費」と
 いうのが基本給、129万2千円。
 この6月のボーナスは299万
 7440円(表2)、平成5年度
 6月現在、年に4・25月分。
 これら月給・ボーナスプラス勤
 勉手当合わせて年額2300万、
 というのが当選回数には関係なく
 衆参両院の議員にひとしなみに支
 給される額で、官庁の政務次官と
 同じ給与レベルだといふ。

さて「支給額」の上から番目
 「永年在職表彰特別交通費」は在
 職25年以上の長老議員に与えら
 れるいわばお車代、月額30万円
 (現在これをもちう人は参議院で
 は3人しかいない)、その下にな
 らば「議会雑費」は議長などの
 「国会役員」に与えられる手当で
 (国会開会中1日につき6千円)。
 双方ともふつうの議員にはほとん

参議院議員 堂本 暁子 殿

支 給 額	
文書通信交通費	
期 末 手 当	2, 997, 440
永年在職特別交通費	
議 会 雑 費	
控 除 額	
所 得 税	1, 139, 020
現 金 支 給 額	¥1, 858, 420

表2

と縁のない項目とあって、堂本さんの給与表でもこれは空白である。基本的に、以上が議員個人に対して支払われる給与で、このお金でマンションを買っても、女につき込んで、財テクでふやしても「自由」というわけである。

税金のつかない報酬

さて以上の収入にたいしては、議員も税金をガッポリ取られる仕組みで、その点では一般の月給取りとまったく変わりはない。

しかし議員にはやはり特権が与えられている。というのは税金を払わないでもいいお金をもたえるからだ。

表1の「歳費」の下にならんで

いる「文書通信交通滞在費」がそれだ、これが50万。その他に同じ金額が月末に支払われる。あわせて月100万。堂本さんはこれを事務所経費と考えている。

この金額は、平成4年度末まではそれぞれ月額30万と45万、計75万だった。この4月から上がったので「ほんとに助かった」と堂本さんはいう。

このお金はいわば議員の政治活動にたいして国が与えている必要経費と考えてよいだろう。

「無税扱いのお金をこれだけあげますからどうも十分に活動してください」というわけである。

現物給与は大企業並み

議員には他にもいくつかの「現物給与」の特典がある。

①議員会館の居宅兼事務所

②地方区議員のための都心一等地にある宿舎（2Kで9千円など）。

③JR、私鉄、バスなどの無料パス。

④国会議員用のハイヤー（各党に限られた台数が割り当てられているので、いつも使えるとは限らない）。

その他秘書を2人、国費で使える（給与は年功序列で公務員なみ。第1秘書で最高60万8千円）。以上、議員に与えられる特典は一部上場会社の管理職並み、国民の代表者として、ますますはふやわしい待遇、といってもよいだろう。

表3

C0276 堂本 暁子 議員歳費差引

コード	科 目 名	金 額
001	県本部納入金	150840
002	選挙基金	238000
005	選挙寄附	50000
016	環境部会	1000
018	外務部会	1000
035	八九会	1000
050	朝鮮問題研究会	300
056	部落解放運動推進委員会	500
058	参議院プレビジョン	2000
063	日米委員会	1000
068	日欧委員会	1000
102	『平和経済』	3000
108	『商工新報』	220
112	政策資料	300
205	日中友好議連	1000
206	日朝議連	1000
216	日独友好議連	500
218	日英議員連盟	500
222	日本ノルウェー友好議連	500
310	鳥類保護議員懇	500
313	「国連婦人2000年」議連	200
319	国際人口問題議員懇	500
350	国連議員連盟	500
353	ワイン愛好議員連盟	1000
357	ILO活動推進議員連盟	500
359	ユニセフ議員連盟	500
365	議員と市民の共同政策ネット	500
366	核と環境問題研究会	2000
368	アムネスティ議員連盟	500
383	地球的行動のための議員会議	1000
402	自動車時間使用料 2月分	4050
407	社会党外務部会 3月分	1000

収入もいいが支出もすごい

さてこのお金のうち、どれだけが手元に残るのか。

まずすべての高給取りと同じく税金がすごい。表1の下端、「控除額」のところで見られるように、税金と年金で合計52万8841円が毎月引かれてしまう。その他団体生命保険、障害保険（いずれも強制加入）で2万8100円。

（表1右側）

それだけで歳費の手取りは57%にダウンしてしまふ。

しかしまあこれは、われわれがつう人とて同じこと、給料の額面は大きくとも、手取りとなると大幅にへっていかざるを得ないのは誰しも同じ。

問題は表1の右側の上にある、

「党よりの依頼差引額」の項目である。46万6410円という大金を、毎月社会党に納めている。内訳を見てみよう。（表3）

党に納めるお金

まず「県本部納入金」が15万8400円。つぎの「選挙基金」23万8千円は、選挙資金としての積み立て。（これは選挙のとき使える）。しかしその下の項目「選挙寄付」の5万円は戻ってこない。

これを少ないというべきか、多い、というべきか。

取材を始める前は、党というものは議員のお金の面倒を見てくれるものとはばかり考えていたが、ここで見るかぎりどうやら美態は逆

なのだ。

考えてみれば、みんなが集まって一つの政党を成立させているのだから、個々の議員がその負担を分けもつのは当然だろう。

このことを含めて、政党というものの財政がどう成り立っているのか、議員一人一人と、その属する党との金銭的なつながりはどうなのかという、ヤブのなかの仕組みを、今後少しずつはつきりさせていきたい。

議員活動にかかると税金

さて党に納めるお金の次にならぶのが、環境部会以下、部会や議員連盟などの会費である。

すべての議員はそれぞれ3つの委員会に所属することになってい

表4

平成4年 堂本事務所経費一覧

(支給 月額/¥450,000・年額/¥5,400,000)

1月	398,888
2月	509,115
3月	528,201
4月	339,165
5月	1,427,526
6月	1,545,684
7月	563,627
8月	341,812
9月	522,309
10月	690,132
11月	542,536
12月	343,065
合計	7,752,060
支給額	5,400,000
補填額	2,352,060

議員個人の持ち出しになる構図は

ただし平成5年度からは、前述したように、「文書通信交通費」が年間で300万増額されているから、活動内容が変わらないとすれば、赤字は約200万ですむことになり、議員の手元は多少楽になるはずだ。しかし、

「選挙資金」2300万のうち約800万しか残らない。後援会の事務所のレントは堂本さん個人で支払っているのだから、堂本議員はシングルだからいいよなものな家族持ちの議員がこれで生活を立てていかなければならないのではきびしい。

その彼女でも、活動すればするほど、赤字が増えるという世界。衆議院の地方区から出ている議員の場合、活発に日常活動をいとなめば、クリーンな活動であっても、どれだけお金がかかることか。

赤字がでる 事務所の費用、1月から12月まで、合計775万2060円(表4)。5月と6月の経費が突出しているのは、ここでコンピュー

原則としてこの人件費には「文書通信交通費(月30万)から支出していたが、ここでもまた約91万の赤字。スペースがないので表は割愛する。

以上、平成4年度1年間で、事務所、人件費、後援会の赤字を堂本さん個人が補填した総額は合計498万9800円。議員になってからまる4年、こ

るが、堂本さんの活動範囲はとくに広く、それだけに会の種類も多岐にわたる。「ワイン愛好議員連盟」など、微笑ましいものもあるが、その他は国会内活動に必要なものばかり。しめて月2万7570円。項目は多いが、額は比較的つつましい。かくて表1につけ出されている平成5年4月の堂本議員の収入のうち、手元に残るのは73万7437円、41%。

さて環境問題で活躍する堂本議員は、アメリカやヨーロッパへの連絡をとるのに不可欠な人材として、第一、第二秘書の他に常時、アメリカ人の秘書をやっている。加えてアルバイトの事務員2、3人の人件費、年額451万9800円なり。

しかしなにこともいいことづくめとはいかない。後援会があればあるで、ニュースレターの発行、その他通信連絡に費用がかかる。最終的に収支は17.2万の赤字になった。

タとプリンターを買入れたから。全体としていかにも経費がすくないのは、事務所が議員会館のなかにあるからだ。平成4年度は、現在と違い政治活動のために支給されるお金が前述したように月4.5万、年540万だったから、収支は約235万の赤字。

会からの収入が平成4年度、約449万。そのお金のなから質の高い研修を行い、自分もブラジルに行き、アメリカ人秘書をワシントンやインドに派遣することができた。

後援会からも赤字が ところで堂本議員には、481人の後援会メンバーがいる。秘書の久保さんは、「そりゃもう、助かってます」という。

うして補填した赤字は、「大体700万くらいかなあ」と堂本さんはいう。

どんな人でも「職業費」には身銭を切っている、仕方なからう、といえばそれまでだが、しかし堂本議員は比例区で選出され、名簿の順位は土井さんが保証しているという、恵まれた立場にいる人なのだ。





写真提供 毎日新聞社

議長選出劇うらおもて

衆議院での、土井さんの議長選出をめぐるゴタゴタ。なんであんなに、と思うのが素人のあさましさ。

実はこの問題は、衆参両院での各委員会の委員長ポストに誰がつくか、の大問題に直結している。

委員長の権限は大きい。法案を審議するか、棚ざらしにするかも胸三寸。「長」は単なる名譽職ではなく、議会運営の実権を握っているのだ。

予算委員会で、佐川問題の証人喚問を要求する動議を野党が提出しようというときに、委員長が「閉会」と言っただけ、それでおしまい。こうして野党の主張はとならず、法律を出しても審議もされないと状況がつづいていた、と当時の野党議員はいう。

しかしいま、衆議院では二十ある常任委員会のうち、自民十八、野党四だった委員長ポストが、連立与党十五、自民五と逆転した。これからはもう、いいわけはきかない。

「与党」が何をしてくれるのか、目を放さずに見守っていこう。

創刊のことば

政治が、面白くなりました。何をやっても無駄、の諦めが消え失せて、女たちは燃え始めています。私たち女のほとんどは、政治にはド素人です。国政を動かす議会の仕組み一つ、よく分かってはいません。コトバの使いかたさえ、ろくろく知りません。

しかし素人には、素人のよさがあります。そしてその素人の目で見まわせば、おかしなこと、気になること、知りたいことが、いっぱい目につきます。

なぜ政治には、そんなに金がかかるのか。福祉にまわす、といっていた消費税は、いったい何に使われているのか。政治は、きたるべき高齢化社会を、どのように迎えるようとしているのか。

マスコミは、目先の問題を追いかけることに急で、私たちがこだわりたい一つ一つの疑問に、決してじっくりと答えてはくれません。

「分からない」というところから出発して、私たちにとって重要な問題を一つ一つとりあげながら、政治の現場をじっくり掘り下げていきたい。

この望みをこめて、このささやかな雑誌をつくることに踏み切りました。小さく生んで、大きく育てていきたいと思えます。

一九九三年九月二十日

編集委員一同

女にとって分からない政治、うんざりする政治
腹の立つ政治である現実から脱皮しようと
一歩を踏み出しました。

ほんとうにささやかな試みですが

政治を身近なものにするためにがんばろうと思っています。

お願いがひとつ、あります。

この小雑誌にはまだ、名前がありません。

「ファミ・ポリテイク」というのは

創刊準備号につけた仮題です。

創刊号から使う本当にいい名前を

みなさまにつけていただきたいのです。

いろいろの意味で

読者参加の雑誌にしていきたいのですが

タイトルのネーミングはその第一歩。

一人でも多くの方のご応募をお待ちしております。

十月の二十日までに、このページにある発行所まで、ハガキでご応募ください。

(採用分には薄謝をさしあげます)。



購読ご希望の方は、直接発行所へお申込み下さい。

レイアウト・林佳恵／絵・西田淑子／製作・グループわいふ

ファミ ポリテイク

創刊準備号

1993年9月30日発行 ●発行人／田中喜美子 ●発行所／(株)グループわいふ
〒162 東京都新宿区矢来町115-406 ☎ 03 (3260) 4771 FAX 03 (3260) 4773
定価300円 隔月刊

振替 東京5-110430